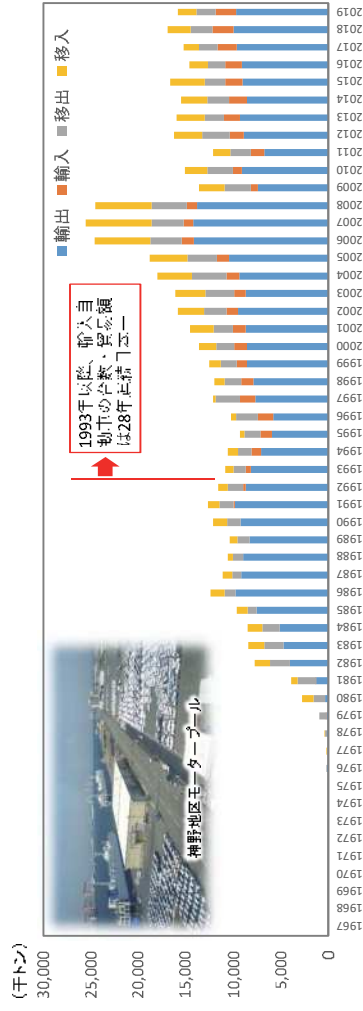


# 3. 20~30年後の将来像

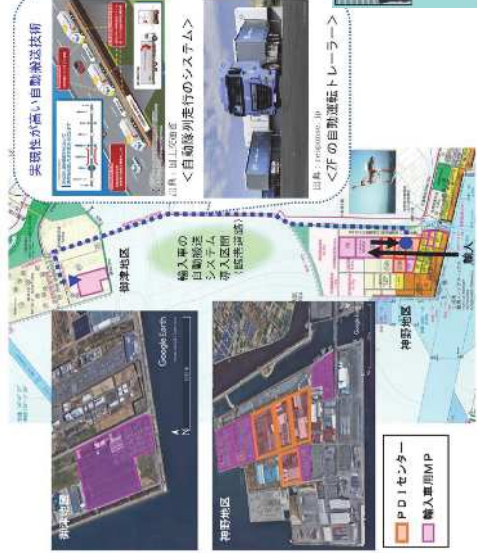
## 物流 新たな国際・国内海上輸送に対応した競争力のあるみなと

- 三河港はこれまで完成自動車の取扱いを中心に発展。輸入完成自動車の台数・貿易額については1993年以降、28年連続全国1位であり、自動車流通港湾として確固たる地位を築いている。また、完成自動車以外にコンテナ貨物も港や地域産業を支える重要な役割を果たしている。
- しかし、近年、物流を取り巻く環境は情報通信技術を活用した輸送の高効率化に向けての動きが加速化しており、逆にその取り組みを推進していかなければ港の競争力低下につながりかねない。また、国においては、農林水産物の輸出拡大に向けた取組が進んでいる。
- 一方、トラックドライバー不足やCO2排出削減など環境の向上への対応として、陸上輸送から大量一括輸送が可能な海上輸送へ転換するモーダルシフトの動きも今後活発化。
- したがって、三河港においては、日本の中心に位置するといった地理的優位性や港背後の広域交通網、多様な地域産業と併せ、情報通信技術の導入・活用や背後圏の拡大を視野に入れ、『新たな国際・国内海上輸送に対応した競争力のあるみなと』を目指す。

### ■三河港完成自動車取扱量の推移



### ■神野地区および御津地区における物流高度化イメージ



資料：「令和元年(平成30年)港湾計画設計調査費の内閣府計画区域調査業務委託報告書」より引用

### ■三河港コンテナ貨物量の推移



### ■AI、ICTを活用したコンテナターミナルの高度化イメージ



### SDGs (持続可能な開発目標) の17の目標のうち関連する項目

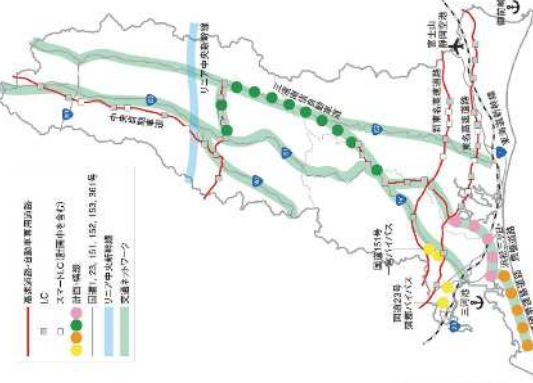
8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

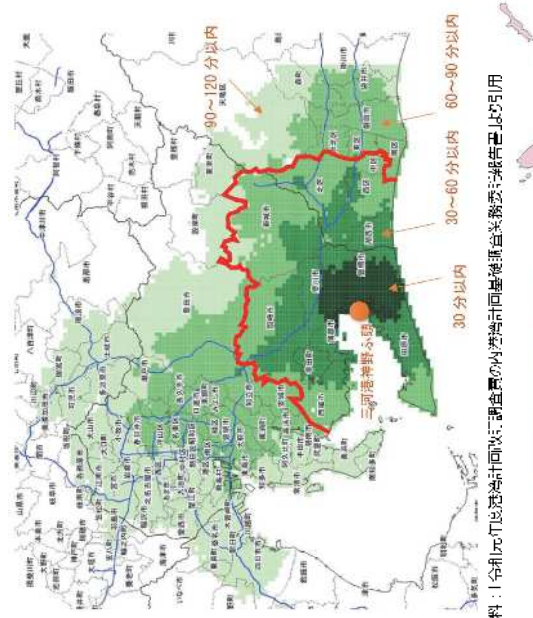
8. 働きがいも経済成長も

9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

### ■地域内の交通ネットワーク



### ■三河港コンテナターミナルを拠点とした到達時間分布



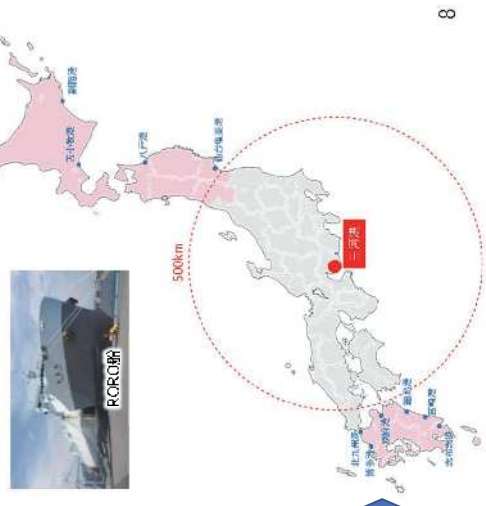
資料：「令和元年(平成30年)港湾計画設計調査費の内閣府計画区域調査業務委託報告書」より引用

### ■トラックドライバー需給の将来予測

	2017年度	2020年度	2025年度	2028年度
需要量	1,090,701人	1,127,246人	1,154,004人	1,174,508人
供給量	987,458人	983,188人	945,568人	896,436人
過不足	▲103,243人	▲144,058人	▲208,436人	▲278,072人

資料：平成30年度 本邦委員会報告書 (公社) 物流研協協会

- 陸上輸送から海上輸送へ転換の可能性のある三河港を拠点とした500km圏外のエリアは、九州・東北・北海道 ※一般的に500kmが海上輸送と陸上輸送の選択の目安
- 愛知県を産地とする500km圏外のエリア (右図の青色) でも、東北・九州とを結ぶ貨物はトラックでの輸送割合が高い一方で海運率は低く、今後はモーダルシフトの進展に伴い、RORO船による海上輸送への転換の可能性あり。





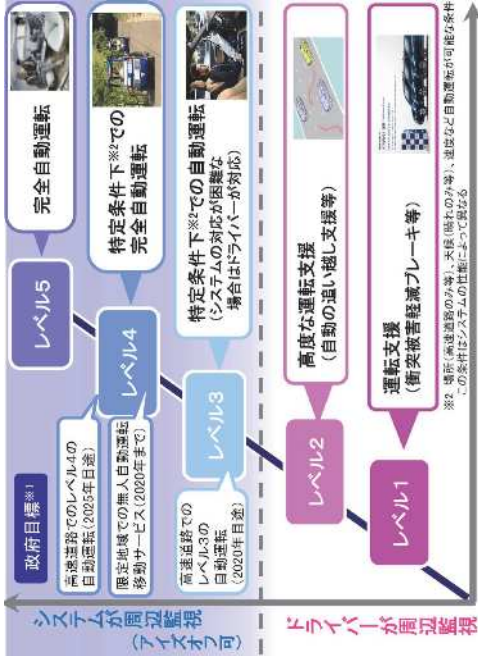
# 3. 20~30年後の将来像

## 産業 地域産業の持続的発展に資するみなど

- 三河港の背後は自動車製造業などが集積し、中部圏の「モノづくり産業」を支えている。このような中、自動車産業を取り巻く状況は電気自動車、燃料電池自動車などの次世代自動車への時代に移行しつつあり、CASE（※1）、MaaS（※2）といった新たな車（移動）サービス提供も展開されつつある。自動車産業はこれまで三河港背後の地域経済の発展に寄与してきた基幹産業であることから、三河港においては、当産業を持続・発展させていくための基盤強化が必要。
- また、自動車産業以外にも近年ではIoTやAIを活用した第4次産業革命が進展するなど、産業を取り巻く情勢は大きく変化。
- したがって、三河港においては、自動車産業を核にしつつ、次世代産業も新たに創出し、育んでいくような「地域産業の持続的発展に資するみなど」を掲げる。

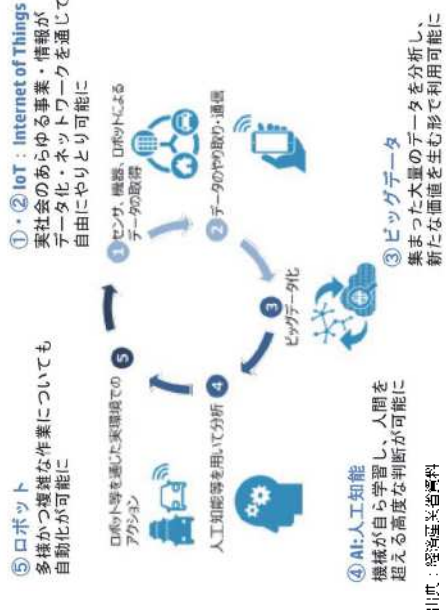
※1：CASE（ケース）… 「Connected」… 「Autonomous」… 「Electric」… 「Shared/Service」… 「エアサービス」  
 ※2：MaaS（マース）… 「Mobility as a Service」の略：移動のサービス化。

### ■ 自動運転のレベル分け

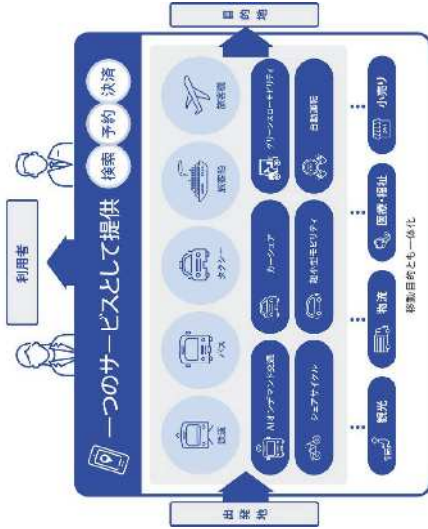


出典：国土交通省資料

### ■ 第4次産業革命



### ■ MaaSのイメージ



### ■ 後継車無人システムの実証実験（新東名）



三河港における完成自動車無人搬送（日産自動車）

### ■ 通勤におけるMaaS適用（実証実験）

①日立地域MaaSアプリ提供

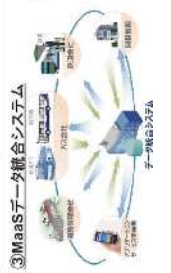
対象交通	路線バス、BRT、鉄道、タクシー、高運バス、レンタサイクル（予定）
想定利用者	日立市/近郊エリア居住者と通勤者
利用料金	アプリは無料（配布）
実施時期	2019年11月頃～（利用性・利用率を検証の上、来年以後の実装を予定）

②デマンド型交通の要請

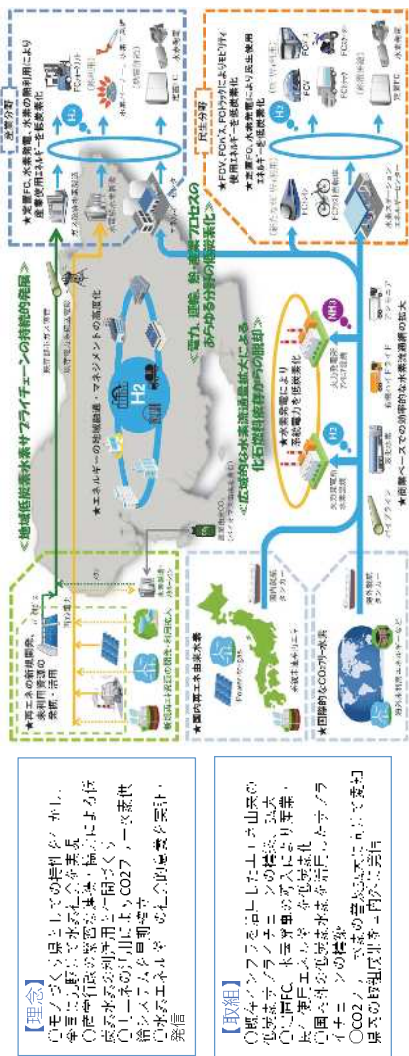
①連動型	②ラストマイル型	③企業利用型	
エリア	東海、信州、静岡エリア	大沼湖エリア	日立地域内主要拠点
対象	日立地域内の事業所に通勤する社員	周辺居住者+自動運転委託参加者	日立地域内の事業所に通勤する社員
時期	2019年11月～12月	2020年1月～2月	2019年11月～12月
料金	有償（予定）	無償	有償（予定）

③MaaSデータ統合システム

関連データを一箇所に集約することでアプリ側でのデータ管理が容易になるとともに、一元的にデータを把握できることで自治体の都市政策立案や交通事業者の運行計画策定に資するデータの提供。



### ■ 新エネルギー産業の例：水素の活用に係る産業



出典：新しい脱炭素水素サプライチェーン2030ビジョン



# 3. 20～30年後の将来像

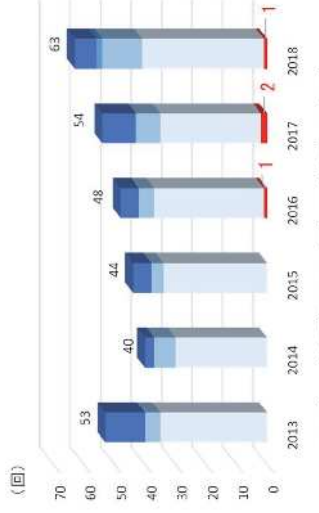
## 人流・交流 人々を海へと誘う魅力あるみなとまち

- 三河港内には観光地である竹島や三河大島が存在するほか、観光・商業施設も多数存在するものの、観光地間の回遊性に乏しいため、各観光資源の連携による総体としての価値の向上が十分に図られていない。また、地域住民にとっても必ずしも魅力ある親水空間にはなっていない状況にある。
- 一方で、近年国内外のクルーズ需要は急増し、2016年以降、三河港にも大型クルーズ船が入港するなど、今後も増加が期待されている。
- 観光による交流人口の拡大は大きな経済効果を生み、地方創生にも寄与することから、三河港においては、既存の観光地なども有効に活用しつつ、国内外の多くの訪問客や地域住民をみなとへ継続的に呼び込み、想いも感じられる滞在空間としての価値も得られるような『人々を海へと誘う魅力あるみなとまち』を目指す。

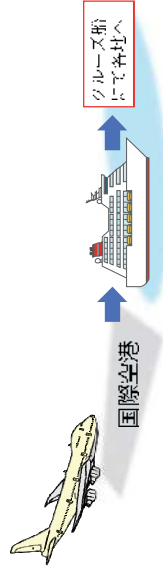
### ■ 主要観光・レクリエーション地



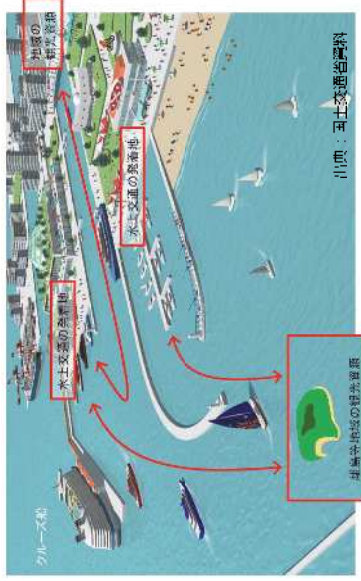
### ■ 伊勢湾へのクルーズ船寄港需要増加



### ■ フライ&クルーズのイメージ



### ■ 水上交通や地域観光資源を活用したクルーズ船寄港地観光充実のイメージ

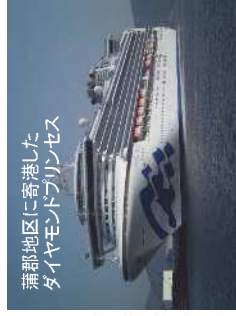


山内：国土交通省資料

### SDGs (持続可能な開発目標) の17の目標のうち関連する項目



- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 14. 海の豊かさを守ろう
- 15. 陸の豊かさを守ろう



蒲郡地区に寄港したダイアモンドプリンセス



ラグナマリーナへの大型クルーズターミナル設置

### ■ クルーズ船による地域振興

寄港埠頭	クルーズ船	クルーズ期間	クルーズ客数
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	10月15日～17日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	10月22日～24日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	10月29日～31日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	11月5日～7日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	11月12日～14日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	11月19日～21日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	11月26日～28日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	12月3日～5日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	12月10日～12日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	12月17日～19日	約1,500名
三河港	ダイヤモンド・プリンセス	12月24日～26日	約1,500名

### ■ ブランド価値を生む空間形成のイメージ

- 民間資金を活用したマリーナ開発や長期の水域利用と一体となった臨海部空間の再開発、水上交通による回遊性の強化
- 様々な観光資源の発掘・書き上げ、快適な観光の提供等を通じた訪日外国人旅行客の満足度向上、地域への経済効果の最大化





# 3. 20~30年後の将来像

## 環境 港湾利用と地域・自然環境が共生・調和するみなど

- 三河湾は高度経済成長期の沿岸開発によりわが国屈指の工業地帯として発展。その結果、水質浄化機能を持つ浅場・干潟・藻場の喪失、陸域からの流入負荷や漂着ごみの増加により海域の環境は悪化。また、住民の生命・財産を防護するための海岸保全施設や豊かな生活の基盤となる物流拠点としての港湾施設の整備により人々が海に触れる機会が減少し、海への関心が低下。
- そこで、「干潟・浅場・藻場が保全・再生・創出され、かつ流入負荷が適切に管理されることにより、貧酸素水塊の形成が抑制され、豊富で多様な生き物が息づいている」、「沿岸や流域の人々が、豊富な魚介類のほか、美しい海岸や海域の景観、海とふれあえる快適な親水空間など、将来にわたって多様な恵みを享受できる」という三河湾を目指して取組を進めていく必要がある。
- 他方、近年、脱炭素化に向けた動きが本格化しつつあり、三河湾においても風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーを活用し、地球環境の改善に貢献する展開を更に促進させていく必要がある。また、三河湾は2003年にリサイクルポートに指定され、今後も背後に集積する自動車関連産業などからの循環資源を活かした、循環型社会の実現に寄与していく役割も求められる。
- このような状況を踏まえ、三河湾では『港湾利用と地域・自然環境が共生・調和するみなど』を旨とする。

### ■三河湾における干潟・浅場の喪失



### ■三河湾における干潟・浅場の造成



### ■伊勢湾再生行動計画

- スローガン  
「人と森・川・海の連携により健全で活力ある伊勢湾を再生し、次世代に継承する。」
- 目標  
「伊勢湾の環境基準の達成を目指し、多様な生物が生息・生育する、人々が海と楽しく安全にふれあえる、美しく健全で活力ある伊勢湾の再生」

- 基本方針1：健全な水・物質循環の構築  
・汚濁負荷の削減、森林・農用地等の保全・整備、海域の底質改善、水質浄化機能の保全・再生・創出等適正な水の利用
- 基本方針2：多様な生態系の回復  
・干潟、浅場、藻場の保全・再生・創出等漁業生産の回復
- 基本方針3：生活空間での憩い・安らぎ空間の拡充  
・人と海とのふれあいの場や機会を創出、水際線、緑地、景観の形成

## SDGs (持続可能な開発目標) の17の目標のうち関連する項目

7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
11. 住み続けられるまちづくりを

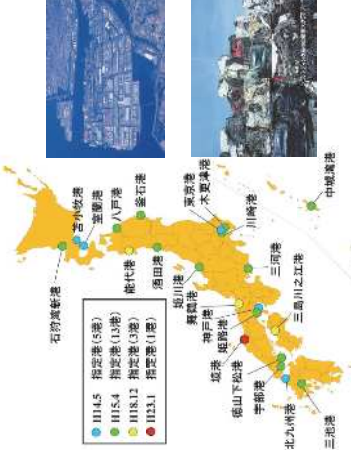
12. つくる責任 つかう責任

14. 海の豊かさを守ろう

15. 陸の豊かさを守ろう

### ■三河湾のリサイクルポート (総合静脈物流拠点港) としての役割

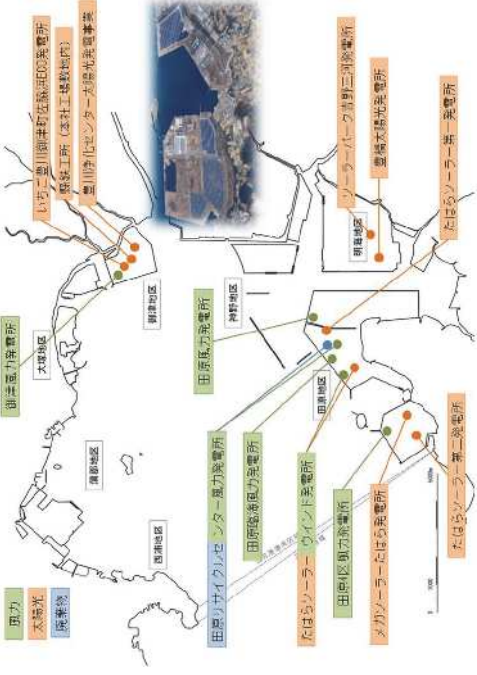
世界トップクラスの国際自動車港湾としてのポテンシャルを活用し、自動車に関連した**生産・物流・リサイクル機能の体系的な整備**などを目指している。



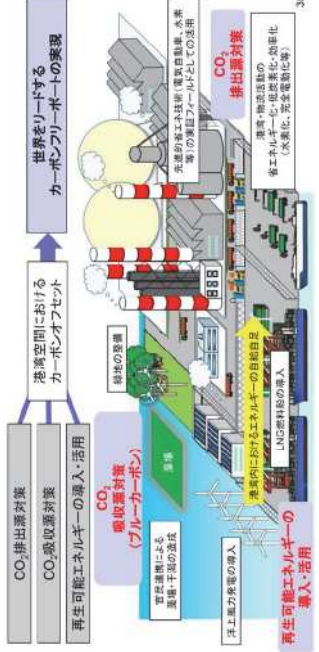
### ■水素社会実現に向けた取組



### ■三河湾臨海部の自然エネルギー・再生エネルギーを活用した発電所



### ■カーボニュートラルポートのイメージ





# 3. 20~30年後の将来像

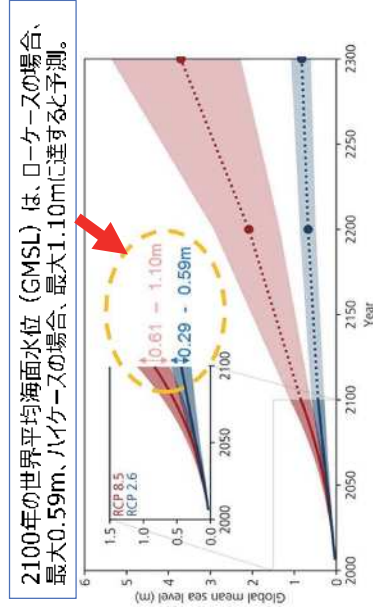
## 安全・防災 市民や地域産業の安全・安心を支えるみなの

- 近い将来発生が予想されている南海トラフ巨大地震などの大規模地震や津波・台風・高潮などの発生に対し、迅速かつ円滑な物流の確保を通じて、人命の安全確保や地域の早期復旧・復興を支援するための重要な役割が港に求められている。
- 三河港の場合、神野・明海地区の堤外地に完成自動車やコンテナ貨物が集積しており、特にこれらの地区へ災害による被害が及ぶと長期にわたりサプライチェーンが寸断されるおそれがあり、結果、地域経済を低迷化させる危険性も高くなる。また、長期的な気候変動による海面上昇や、年々激甚化する台風や巨大低気圧による港内及び背後地域への浸水のリスクも増大することが予想される。
- さらに、港湾事業者や港への来訪者に対する防災対策の徹底も重要な課題である。
- 他方、新型コロナウイルス感染症拡大を契機に、港における水際対策は益々その重要性が高まっている。
- このような状況を踏まえ、三河港では『市民や地域産業の安全・安心を支えるみなの』を目指す。

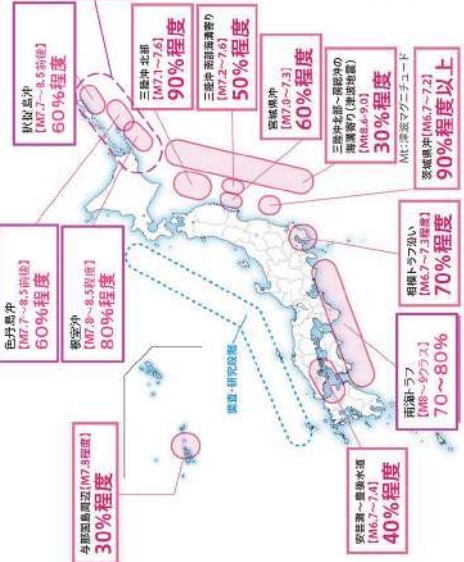
■平成21年台風18号による三河港の被害状況



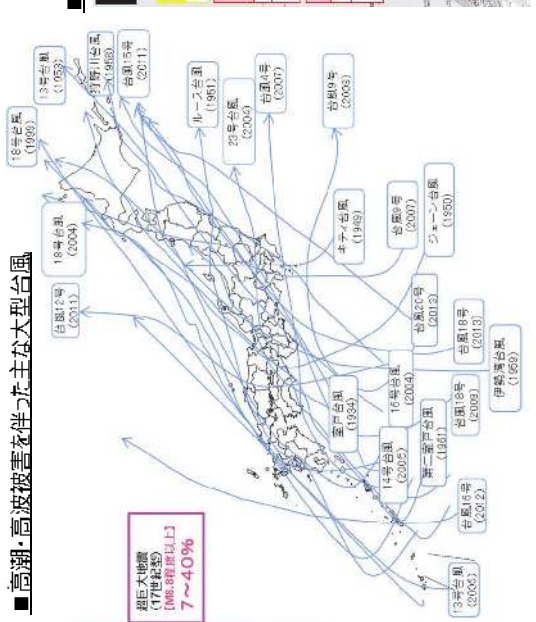
■気候変動に伴う海面上昇



■我が国で発生した主な大規模地震と今後30年以内の発生確率



■高潮・高波被害を伴った主な大型台風



■神野・明海地区におけるエリア減災計画



■三河港BCPの更なる強化



■港湾における感染症水際対策

- ✓「船舶ガイドライン」(一社)
- ✓「日本外航客船協会」、「港湾ガイドライン」(公社)
- ✓「日本港湾協会」等のガイドラインに対応。
- ✓その上で、三河港や背後における関係機関等の役割分担を明確にし、迅速かつ安全な水際対策が必要。

SDGs (持続可能な開発目標) の17の目標のうち関連する項目



- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 13. 気候変動に具体的な対策を





# 4. 目標と取組戦略

## 産業 地域産業の持続的発展に資するみなと

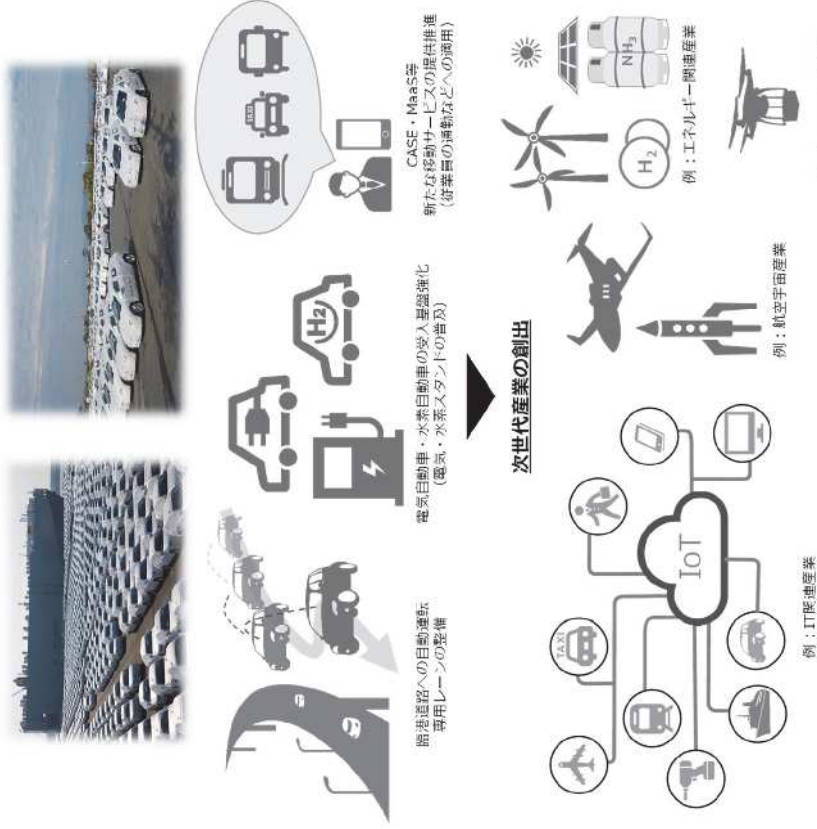
### 目標3

#### 自動車産業の持続的発展と次世代産業の創出

##### 【取組戦略】

- 三河港は世界屈指の自動車流通港湾であり、背後は自動車産業が基幹産業となっている。今後も持続的に発展していくために、電気自動車、燃料電池自動車などの次世代自動車の受入れも見据えた基盤の強化を図る。
- 臨港道路において自動運転専用レーンの整備を行うなど、CASE（ケース）、MaaS（マース）といった新たな車（移動）サービス提供の推進を支援する。
- 自動車産業を核にしつつ、社会構造の変化に対応すべく、自動車産業以外の地域産業を更に発展させていくため、既存の未利用地の活用や新たな土地の確保により、航空宇宙産業やドローン関連産業などの次世代産業を創出し、育んでいくことを目指す。
- これら産業の生産性や効率性の向上を図るため、埠頭間及び背後広域交通網とのネットワークの形成を推進する。

##### 自動車産業の持続的発展



自動車産業に加えさらなる次世代産業の積極的誘致

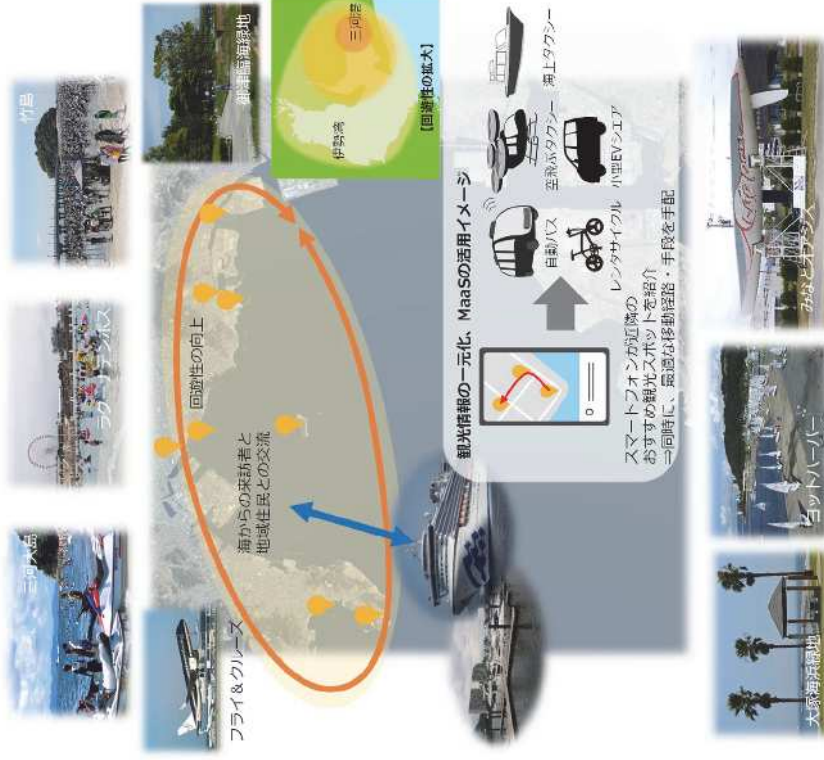
## 人流・交流 人々を海へと誘う魅力あるみなとまち

### 目標4

#### 豊富な観光資源の活用・連携による交流機会の増大

##### 【取組戦略】

- 港内及び臨海部に点在している、美しく豊富な観光資源・海洋レジャー資源をMaaSなどの移動サービスにより有機的に結びつけ、回遊性の向上をもたらすことで、観光地としての魅力及び集客の向上を図る。
- 国内外のクルーズ船やスーパーヨットの受入機能や体制を強化するとともに、背後圏へのゲートウェイとして、国内外の来訪者が極力寄港地で滞在し、地域住民とも交流することで賑わいのある光景が日常的になることを目指す。これにより、地域経済の活性化を図るとともに、地域をブランド化することにより、三河港の魅力が国内外に発信する。
- 観光情報を一元化し、多言語にも対応した高い水準のサービスを提供する。
- 三河港が地域住民にとっても親近感のある港になるため、アクセスの改善と併せ、港湾緑地（公園）などの親水空間を港全体でバランス良く配置し、港の魅力向上を図る。
- 三河港の強みである自動車産業などを観光資源（工場見学など）として活かし、港の役割・重要性を次世代に渡り広く理解してもらふための教育資源としても活用する。





# 4. 目標と取組戦略

## 環境 港湾利用と地域・自然環境が共生・調和するみなと

### 目標5

#### かつての豊饒な宝の海を取り戻す

##### 【取組戦略】

- 「貧酸素水塊の発生を拡大させない、抑制する」、「干潟・浅場など生物生息の場への必要な栄養塩供給を維持・改善する」、「六条潟、汐川干潟など三河湾内に存在する貴重な生物生息の場を保全する」といった考え方のもと、干潟・浅場造成を中心とした豊かな海の保全・再生に向けた環境施策を継続的に実施する。
- 将来にわたって人々が海の恵みを楽しむことができることを理想の姿として、豊富な魚類がとれる豊饒な海の再生に加えて、多様な海岸線や海域の良好な景観、ごみがなく、良好な水底質環境が保たれた海とのふれあいの場などの拡大を目指す。
- 再生可能エネルギーを活用した海水交換の促進や、A I・I C T技術を活用した海域環境の見える化など、豊かな海の保全・再生に資する新技術の導入を目指す。
- 産官学や住民、N P Oなど多様な主体による協働・連携を図り、これらの取り組みを進めていく。

#### 海域環境の維持・再生・創出を図るための取組み



環境学習の場としての三河湾の利用

## 環境 港湾利用と地域・自然環境が共生・調和するみなと

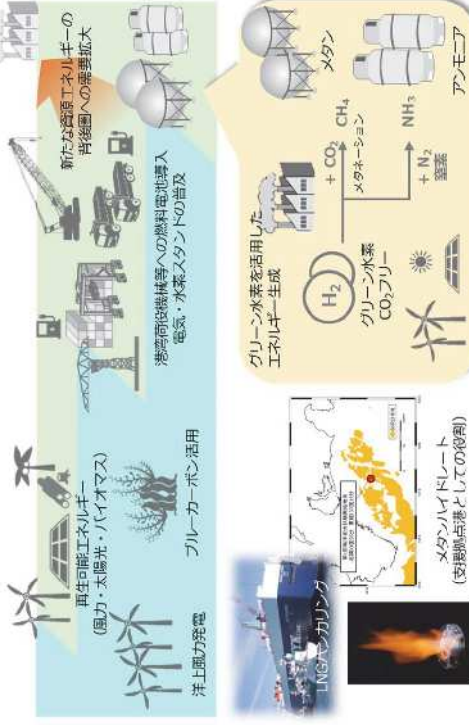
### 目標6

#### 地域の自然・産業を活用した環境にやさしいみなとづくり

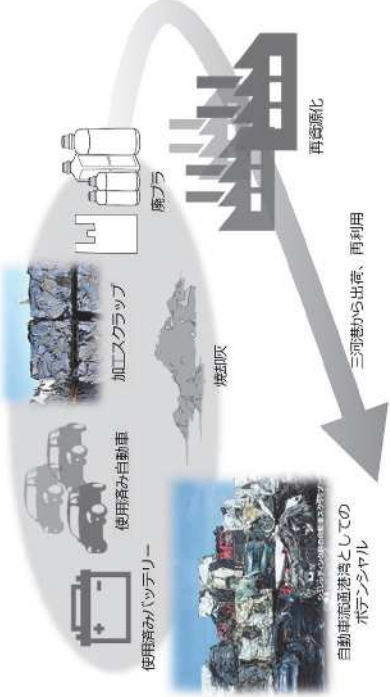
##### 【取組戦略】

- 三河湾沿岸部は年間を通じて安定した強い風が吹くことや日射量が多いことなどの地理・地形特性を活かし、引き続き、民間の活力を活かしながら、脱炭素化に向けた風力発電・太陽光発電などの再生可能エネルギーの積極的な導入支援を行う。また、バイオマス発電のさらなる導入やLNG、メタンハイドレートの活用のほか、ブルーカーボンやグリーン水素、アンモニア、メタネーションなどを活用した「カーボンニュートラルポート」の実現など、新たな資源エネルギーの受入拠点の形成、及び背後圏への需要拡大を図る。
- 使用済み自動車やバッテリー、廃プラスチック、焼却灰などの循環資源に対応した静脈物流ネットワークの拠点となる、リサイクルポート（総合静脈物流拠点港）としての役割を果たし、循環型社会の実現に寄与する。

#### カーボンニュートラルポートの形成



#### リサイクルポートとしての役割の確立





# 4. 目標と取組戦略

## 安全・防災 市民や地域産業の安全・安心を支えるみなど

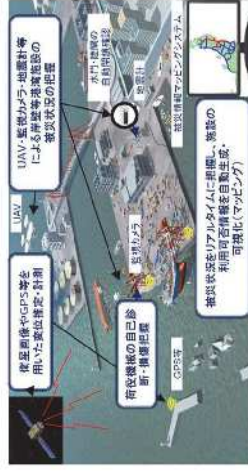
### 目標7

### 様々な災害から地域を守る強靱なみなどづくり

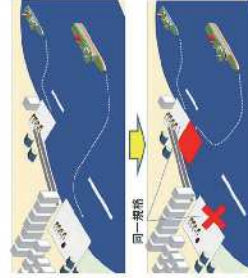
#### 【取組戦略】

- 大規模地震など、突発的な災害にも迅速かつ円滑に緊急物資を輸送できるよう、不足する耐震強化岸壁の整備を進めるとともに、人が近づけない場所でのIoTやドローンの活用など、情報通信技術を積極的に導入することで住民の安全・安心の確保や早期の地域復興支援を図る。
- 来訪者への避難体制の確立、災害の際の就業者や来訪者への事前周知、救助計画の策定や防災訓練の実施など、日頃から関係機関が一体となった、防災対策の取り組みを行う。
- 港背後の災害対策基地との連携による地域防災拠点の形成を図る。
- 頻発化・激甚化する地震・津波・台風・高潮といったあらゆる自然災害や、気候変動に伴う海面上昇に対し、港が継続的に機能を維持し、物流・生産・生活に損害を与えることがないよう、防波堤の整備や堤外地などにおける防災対策の強化を図る。
- 感染症対策として、関係機関が連携した水際対策の強化を図る。

#### 情報通信技術の導入

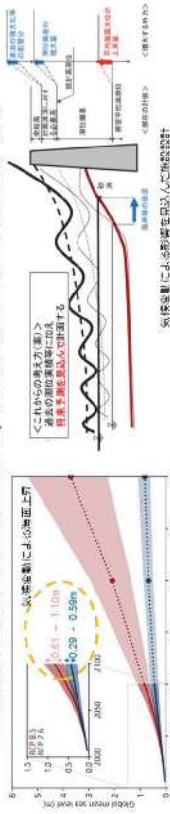


#### 埠頭規格の周辺港との統一化



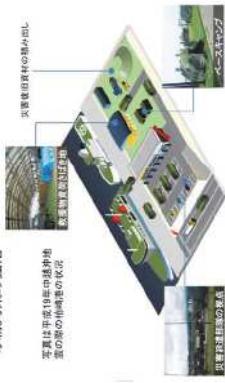
#### 港湾施設の機能強化

- 耐震強化岸壁や防波堤・防潮堤の整備、拡充
- 気候変動による影響への対応（例：海面上昇(100年後に最大1.1m)、潮位幅差の増大 など）



#### 平時からの防災対策の強化

- BCP（事業継続計画）の継続的な見直し
- 地域防災拠点の形成（みなとオアシスの活用）、防災訓練の継続的な実施
- 水際対策の進化



#### エリア防災計画の更なる強化・拡充

- 神野・明海地区以外へのエリア防災計画の拡充
- 計画に基づき早く早急な施設整備





# 「強み」を伸ばし、時代とともに新たな価値を「創造」するみなと『三河港』

### 三河港が持つ「強み」

- 自動車産業の集積、世界屈指の自動車流通港湾
- 日本の中央に位置する地理的優位性
- 広大な港湾区域（空間利用ポテンシャル）
- 広域交通網によるネットワーク
- 中部圏のモノづくり産業
- 国内屈指の農産物産出地域
- 豊富な観光資源・海洋レジャー資源
- 豊かな自然環境（干潟・浅場など）
- 再生可能エネルギーの集積
- リサイクルポート（総合静脈物流拠点港）
- 津波への強さ、防災への先進的取組 etc.

### 「強み」をさらに伸ばす 時代の変化に 適応する

### 時代に応じた社会情勢の変化

- 人口減少、少子高齢化の進行
- 第4次産業革命の進展
- 伸びゆくクルーズ需要
- 脱炭素社会への移行
- SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組み
- 自然災害の激甚化
- 新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした感染症への意識の高まり etc.

### 新たな価値を「創造」する

### 三河港で「創造」される新たな価値

- 完成自動車AIターミナル・コンテナAIターミナルの形成
- 背後圏の拡大と農林水産物等の輸出促進
- モーダルシフトの促進と次世代高規格ユニットロードターミナルの形成
- 自動車産業の持続的発展
- 次世代産業の創出と積極的誘致
- 観光資源間の回遊性向上・拡大
- 来訪者と地元住民の交流機会増大に伴う地域経済の活性化
- 豊かな海の保全・再生、人と海とのふれあいの場の拡大
- 新たな資源エネルギーの受入拠点の形成
- 静脈物流ネットワーク拠点の形成
- 様々な災害に備えたハード面・ソフト面での強靱化



## 新たな国際・国内海上輸送に対応した 競争力のあるみなど

- ① 最新の情報通信技術の導入・活用による  
物流の高効率化の実現
- ② 三河港の地理的優位性や地域産業、  
広域交通網を活かした背後圏の拡大

地域産業の持続的发展に「強み」を伸ばし、  
時代とともに  
新たな価値を  
「創造」するみなど  
『三河港』

- ③ 自動車産業の持続的发展と  
次世代産業の創出

市民や地域産業の  
安全・安心を支えるみなど

- ⑦ 様々な災害から地域を守る  
強靱なみなどづくり

人々を海へと誘う  
魅力あるみなどまち

- ④ 豊富な観光資源の活用・  
連携による交流機会の増大

港湾利用と地域・自然環境が  
共生・調和するみなど

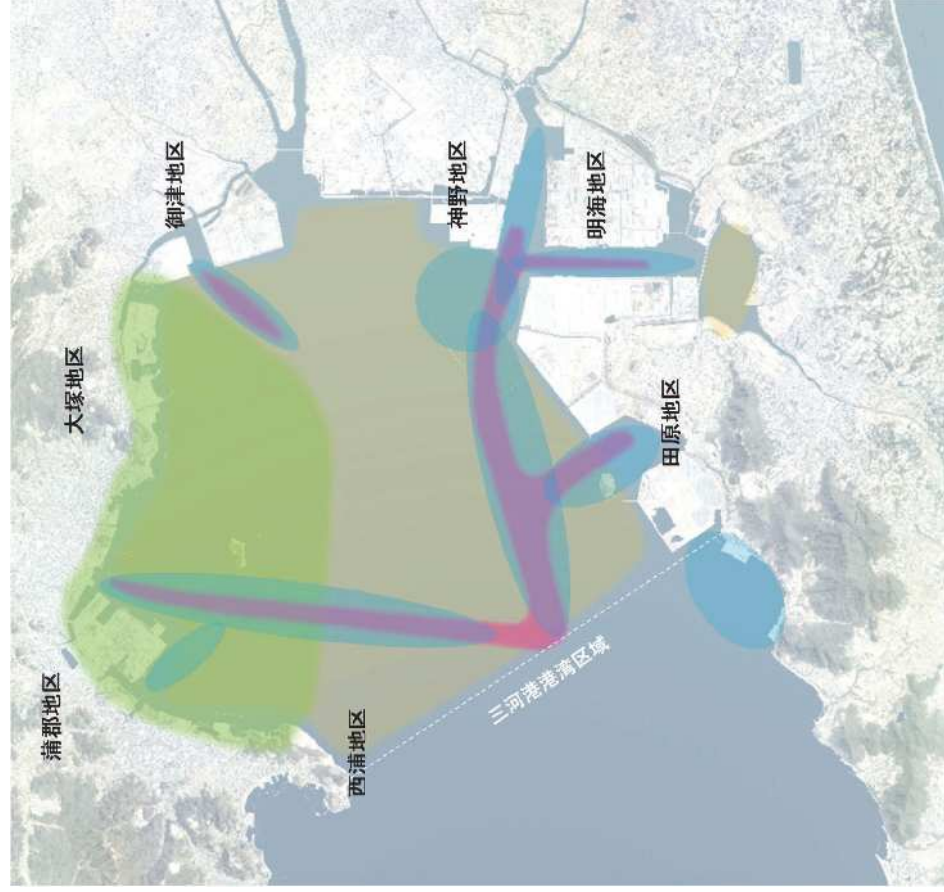
- ⑤ かつての豊饒な宝の海を取り戻す
- ⑥ 地域の自然・産業を活用した  
環境にやさしいみなどづくり



## 6. 空間利用の視点

### 水域利用の視点

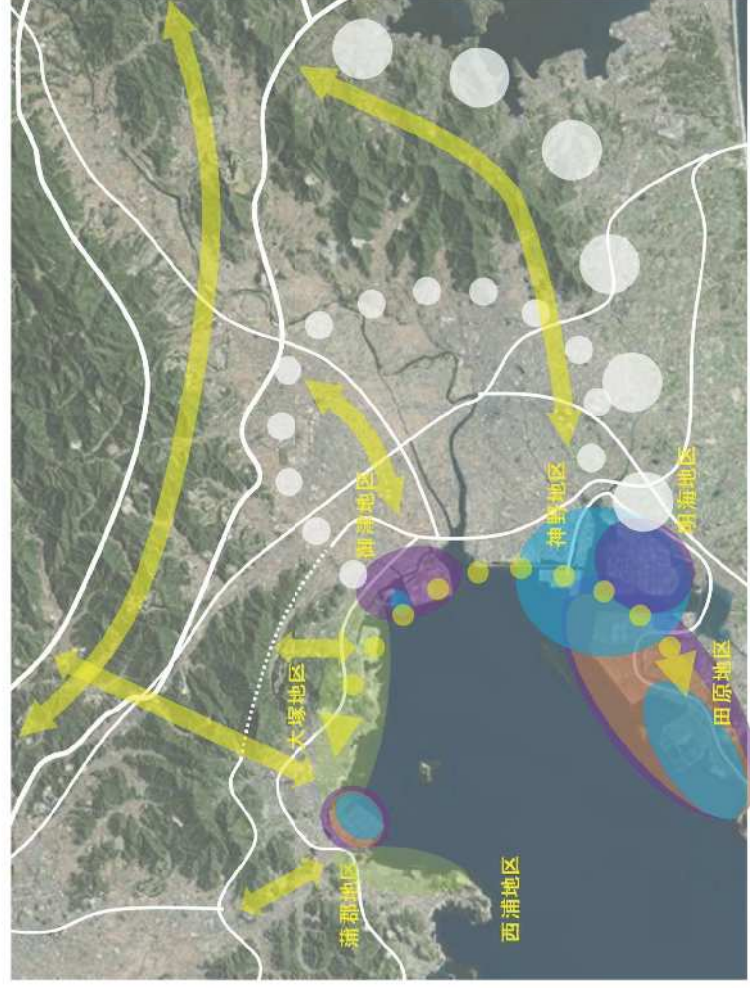
- 水域利用は、「物流」のみならず、広大な港湾区域を活用した「人流・交流」、豊かな自然環境や新たな資源エネルギーを背景とした「環境」、大規模災害時における速やかな緊急物資輸送を想定した「安全・防災」の視点が重要となる。



- 物流に係る水域利用
- 環境に係る水域利用
- 安全・防災に係る水域利用
- 人流・交流に係る水域利用

### 陸域利用の視点

- 陸域利用は、現在の地区別の機能を維持・拡大することを基本とする。
- また、各ふ頭間がネットワークで有機的に結びつくことで輸送の効率化や、広域幹線ネットワークに繋がることで背後圏の拡大が図られ、さらに港湾区域にまたがる4市が一体となり、臨海部を拠点に各市が互いに相乗効果を得ることで、地域がより持続的に発展していくといった視点が重要となる。



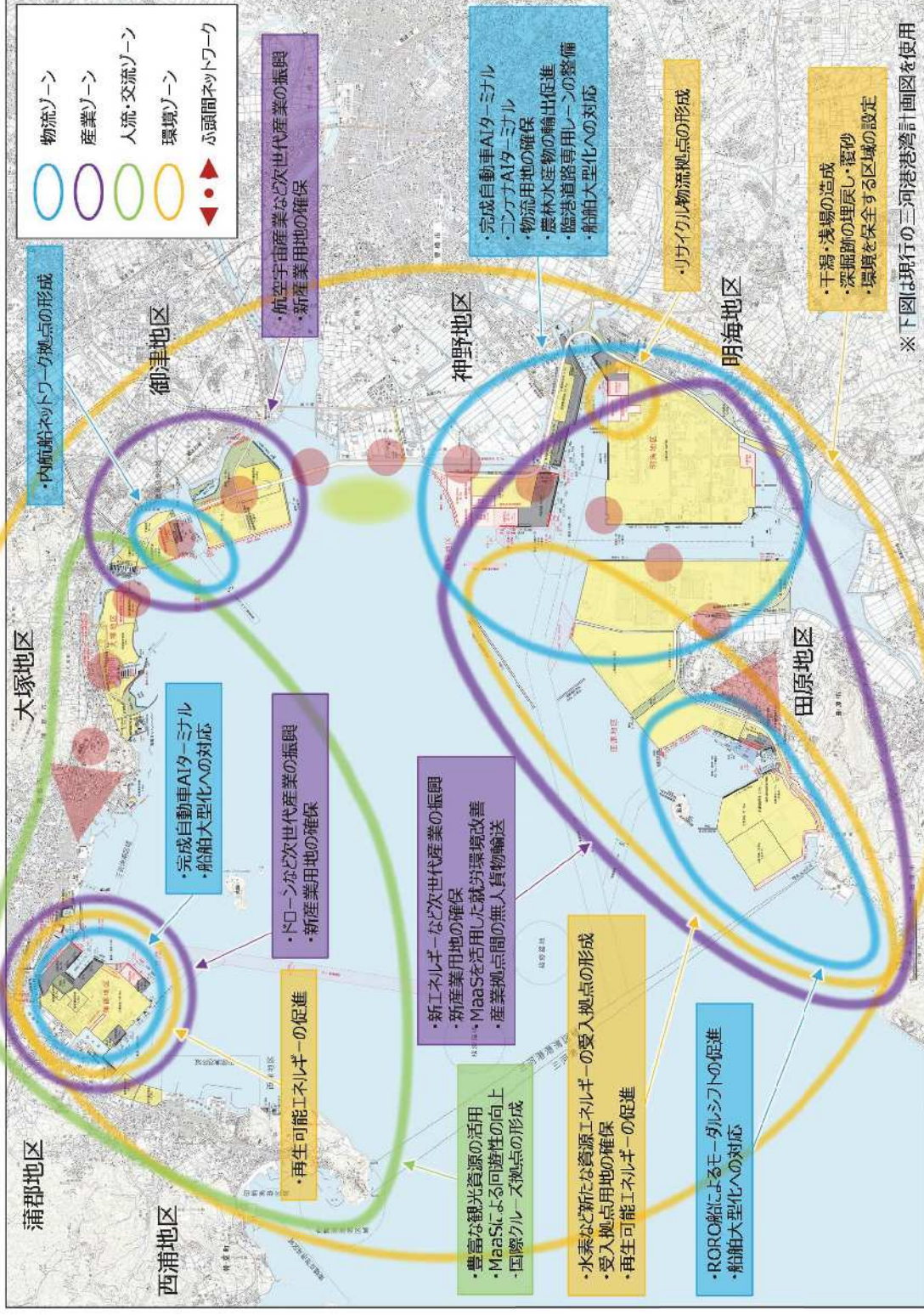
- 物流に係る陸域利用
- 環境に係る陸域利用
- 産業に係る陸域利用
- 人流・交流に係る陸域利用
- 広域幹線ネットワーク



# 7. 空間利用ゾーニング

## 【三河港の空間利用の方向性】

- 将来像 -  
新たな国際・国内海上輸送に対応した競争力のあるみなと
- 神野地区・明海地区・田原地区・蒲郡地区及び御津地区は、新たな国際・国内海上輸送に対応した**物流ゾーン**とします。
- 将来像 -  
地域産業の持続的発展に資するみなと
- 明海地区・田原地区・蒲郡地区及び御津地区は、自動車産業を持続・発展しつつ次世代産業の積極的誘致を図る**産業ゾーン**とします。
- 将来像 -  
人々を海へと誘う魅力あるみなと
- 蒲郡地区・大塚地区及び西蒲郡地区は、豊富な観光資源・海洋レジャー資源を活かした**人旅・遊憩ゾーン**とします。
- 将来像 -  
港湾利用と地域・自然環境が共生・調和するみなと
- 水城部と神野地区・明海地区及び田原地区は、三河港の豊かな海域環境の保全・再生と脱炭素化・循環型社会の形成を見据えた**環境ゾーン**とします。
- 将来像 -  
市民や地域産業の安全・安心を支えるみなと
- 4つの将来像を確実に実現するため、港全体で**安全・防災**を確保します。





## 8. 長期構想の実現に向けた推進体制

- 三河港が持続的に発展をしていくためには、より効率的な港湾サービスを提供するための港湾経営の視点が必要。
- 時代のニーズの変化に迅速に対応できる港湾運営体制の構築が重要。
- 三河港の長期構想の実現に向けて、4市にまたがる三河港の港湾活動に関わっている様々な主体による一体的・戦略的・機動的な推進体制の検討が必要。